

赤城に根を張る六箇山工房

我がまちの赤城町に開設された六箇山工房は、ガラス工芸と手作り帽子作家の集団だ。

渋川市にゆかりのなかった人々が移住し、工房開設に至った背景や、地域と共生していく思いを、主宰の小野口カナメさんに聞いた。

信念と努力で掴んだ ガラス工芸作家への入り口

雄大な赤城山の裾野に位置する赤城町津久田地区。なかでも、関越自動車道の赤城インターチェンジ付近は、眼下に渋川市街地の街並み、眼前に目を向けると、遠く榛名山を見渡す素晴らしい景観を誇る。

「この地に惹かれて工房を構えました。特にこの景色は、重要な要素ですね。そう話すのは、ガラス工芸と手作り帽子の作家が集う、六箇山工房を主宰する小野口カナメさん。2018年春から本格的に同工房を稼働させ、仲間と共に創作活動に励んでいる。

「最初は大変でした」

試行錯誤で吹きガラスの製造に必要な炉を組み立て、一心不乱に技術を身に付けていく小野口さん。やがてその働き振りは、とある企業の目に留まり、ガラス工房の主任として誘われた。「飲食事業を展開する会社なのですが、店で出す器やエクステリアのガラス装飾を自社で作っていたんです」。

決して夢を諦めず、努力と熱意で手練り寄せたチャンス。しかし小野口さんには、さらなる目標があった。ガラス工芸作家としての独立である。

六箇山工房の作家が手がけた帽子とガラスの作品。これらは蔵を改装したギャラリーで展示・販売されている



小野口さんが吹きガラスの世界に飛び込んだのは30代。もともとは、美術大学を卒業後、テレビ番組や映像制作を手がけるプロダクションに就職し、その後はニット機械メーカーのコンピュータグラフィックス制作部門に転職。ガラスとは関わりのない分野で手腕を振るっていた。

「最初はただの趣味だったんです」。古いガラスのコレクションや、まちのガラス工芸教室に通うなど、趣味の範囲で親しむうち、次第に職業として携わりたいという気持ち膨らみ始めたのだという。

移住で叶えた夢と 未来への新たな思い

帽子づくりを趣味にしている妻と一緒に、ものづくりの工房を構えたい。「この夢は、36歳で会社員を辞める前から持っていました」と話す小野口さん。主任として働き始めたガラス工房でも、思いは募るばかりだった。

企業の持つ工房ゆえ、当然、自身の感性よりも会社の意向に沿ったものづくりが圧倒的に多い。それでも小野口さんは、積極的にアート展への出品やギャラリー展示など、作家としての活動を増やしていく。同時に、工房を構えるための具体的な移住先を検討するようになる。

「インターネットやガイドブックで調べては、いろいろな場所を見て回りました。そんななか、趣のある母屋と蔵、広い敷地が目にとまり、現地を確認したのが、赤城町の物件だった。

「家は使わなければすぐに朽ちます。小野口さんのような、夢を持った人に使ってもらえてよかったです」。そう話すのは、市内で不動産会社を営み、小野口さんの移住をサポートした峰岸和夫さん。少子高齢化が進み、元気を失っていく地元渋川をどうにかしたい。そんな思いを胸に、10年ほ

難しいとされる世界。「作家を目指す若い人々と、同じスタートラインにすら立てないのが現実でした」と、小野口さんは当時を振り返る。

夢と現実の間で悩むなか、ひとつの機会が巡ってくる。知人の縁で、ガラス工芸作家の工房立ち上げに関わる機会を得たのだ。小野口さんは思い切って、勤めていた会社を退職。36歳にして念願の一步を踏み出した。

「技術も経験もありませんが、ど前から自社のウェブサイトで、さまざまな冊子に、移住のための物件情報を提供。今後も移住促進に尽力したいと、思いを伝えてくれた。

「居心地が良く、何度でも訪れたい場所。そして、訪れるたびに発見できる変化や出来事があり、作る者と物を通して、人々の心を紡ぐ。それが私たちの目指す工房なんです」

古民家が地域で育んできた地縁や歴史、眼前に開ける絶景。ここなら、思い描く工房を作れるかもしれない。そう考えた小野口さんは、2015年に渋川への移住を決断。少しずつ家や蔵に手を入れ、作業場を整え、現在に至っている。

「単純なものづくりの工房ではなく、人々が気軽に集える場所にしていきたいんです」。地域に根をおろし、人々との交流のなかでものをつくる。小野口さんは、これからこの地で実現していく新たな夢を、嬉しそうに話してくれていた。

寒さの増す時季。冷たい風の隙を縫って、六箇山工房を訪ねてほしい。ものづくりに勤しむ作家たちと、その作品の温かさに、きつと触れられるはずだ。

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。株式会社九つ井のガラス工房運営主任を経て独立。アート展入選多数



六箇山工房 主宰
小野口カナメさん

移住で渋川を元気にしたいと活動。小野口さんをはじめ、他にも何人もの移住を手伝ってきた。渋川生まれ渋川育ち



株式会社富士開発 代表取締役
峰岸和夫さん

帽子工房の作家は1人。サイズはもちろん、形や素材選びにも応じて、オーダーの帽子を手作りで仕立てている



ガラス工房にはガラス工芸作家が3人所属。自分たちの作品はもちろん、依頼のあった品を制作している



フリモARで吹きガラスの制作風景が見られます

AR

蔵を改装したギャラリーショップ。六箇山工房作家の作品はもちろん、他の作家の品もセレクトし、販売している

六箇山工房/渋川市赤城町津久田642/10:00~16:00/火曜・水曜定休/☎070-7462-3179/吹きガラス体験は事前予約が必要

